

1 頁中段

現状・課題

- ① 成人期まで使える情報共有ツールが無い
- ② 所属機関や支援者が変わる際、必要な情報のアンマッチや情報不足により、支援の停滞が起こりがちである
- ③ 新たな支援者につながっても、障がい特性や支援経過の共有が不十分なため、当事者・家族と支援者間の信頼関係の形成に時間がかかる

2 頁上段

めざす姿

- ① 当事者・保護者と支援者間、または医療、保育、福祉、教育、就労等の各分野の支援者間で、個々の発達障がいの特性や支援に関する情報、ニーズ等の共有がスムーズに行える「情報共有ツール」がある。
- ② 各分野の支援者間で、個々の発達障がいの特性や支援に関する情報共有がスムーズに行われ、ライフステージを通じた切れ目のない支援の引き継ぎが行える仕組みがある。

2 頁下段

取組方針

- 【1】 ライフステージの移行時や支援機関(者)等がかわる際の、支援の引き継ぎ状況、課題等について、自治体調査及び医療・福祉・教育・就労等の関係機関への聴取りを実施し、実態把握、要因分析を行う。
- 【2】 本市の現状について把握し、多角的な視点からの分析を行うため、本人・保護者のニーズを調査するとともに、各ライフステージで支援に携わる関係機関等に対して、意見を広く収集し、あるべき「情報共有ツール」の姿を分析する。
- 【3】 【1】及び【2】の結果をふまえ、共有すべき「情報」支援内容を整理し、「情報共有ツール」の内容を検討する。
地域の実情に応じた「切れ目のない支援の引継ぎのための仕組みづくり」を検討する。

4 頁上段

取組み内容

【1】（平成29年度）：自治体調査の実施

【調査先】

- ◆都道府県・政令市、医療・福祉・教育・就労等の関係機関。

【2】（平成30年度）：本人・保護者・関係機関等への調査の実施

【調査先】

- ◆本人、保護者、保育所・幼稚園（公立・私立）、公立学校（小・中・高）、特別支援学校、専門学校、短大・大学、企業、障がい福祉サービス・障がい児支援事業所等、児童養護施設、医療機関、区、こども相談センター。

5 頁上段

【3】（令和元・2年度）：情報共有ツールの内容の検討、支援の引き継ぎのための仕組みづくりの検討

【令和元年度】

- ◆平成29・30年度に実施した調査結果の分析、情報共有ツールの内容及び普及啓発方法の検討。

【令和2年度】

- ◆情報共有ツール「就学編」を保護者等に試用してもらい、試用後に効果測定を実施。使用上の意見を分析し、より使いやすいものを作成。
- ◆就学時以降の移行期に有用な情報共有ツールを順次作成。
- ◆情報共有ツールの普及啓発活動を実施。

切れ目のない支援の引継ぎの仕組みづくり

～ 情報共有ツールを活用した仕組み～

6 頁中段

～ 情報共有ツール「就学編」の試用 ～

令和元年度に作成した情報共有ツール「就学編」試用版について、使用する上での意見や感想を把握し、より使いやすいものへ改善するために、保護者や支援者に試用してもらい、試用後にアンケートを実施するとともに、その効果を測定する。

6 頁下段

試用状況

(令和2年9月末現在)

試用者	対象児童	配付者数	試用者数	その他
ペアレント・トレーニング参加保護者	小学校1～4年生	5人	3人	
発達障がい児専門療育機関利用者の保護者	年少児～年長児	20人（予定）	20人（予定）	10月から試用開始

7 頁下段

試用上の意見

試用した保護者の主な意見

(令和2年9月末現在)

- ・小学校入学時にあれば、子どもの発達の特徴を伝えるのに便利だったと思う。
- ・担任の教師とのディスコミュニケーションで困っていたので、書式が欲しい。
- ・チェックすれば良いので、簡単で使いやすい。
- ・大きさや記入量はちょうどよい。
- ・家にプリンターが無いので、印刷した形の方がよい。（パソコンでのデータ受信や保存はできる。）
- ・「苦手なこと・不安になりやすいこと」は、伝えたいことが多いので、もう少し記入するスペースを多くして欲しい。

() さん

「就学編」情報共有ツール（サポートブック） 試用版

- このサポート・ブックは（ ）さんが初めての学校生活をよりスムーズに開始できるように作成しました。
- 学校や支援者の先生方と（ ）さんが困った時の工夫の仕方を情報共有することで、それぞれの場所でのより良い支援が実現するものと思っています。
- 先生方にも保育園や学校で発見したことを書き込んでいただけると嬉しいです。

プロフィール

年 月 日作成

名 前：

生年月日： 年 月 日 歳 カ月

家 族：

住 所： 大阪市 区

連 絡 先： 携 帯 - -

 自 宅 06 - -

医療機関：

相談先・支援機関：

診断名 ： なし・あり ⇒

アレルギー： なし・あり ⇒

服 薬 ： なし・あり ⇒

配慮事項 ： なし・あり ⇒

発達・知能検査：なし・あり ⇒

障がい手帳： なし・あり ⇒

いいところリスト

☆できること・がんばっていること

・

・

☆特技・とてもくわしいこと

・

・

*先生と一緒にたくさんいいところ（具体的な行動）を見つけてください。

好きなこと・落ち着くこと

☆好きなこと

☆落ち着くこと

・場所：

・もの：

・活動：

・食物：

苦手なこと・不安になりやすいこと

・場所：

・場面：

・ひと：

・食物：

・その他：

発達の特徴

当てはまるものに☑をつけてください。 心配な分野の傾向がわかります。

1. ことば、コミュニケーションの心配	☐ とてもある	☐ ある	☐ なし
2. 変化への適応の心配	☐ とてもある	☐ ある	☐ なし
3. 社会性での心配	☐ とてもある	☐ ある	☐ なし
4. 多動性・衝動性・不注意	☐ とてもある	☐ ある	☐ なし
5. 学習上の心配	☐ 聞く ☐ 話す ☐ 読む ☐ 書く ☐ 計算する ☐ 推論する ☐ なし		
6. 運動・姿勢の心配	☐ バランスが悪い	☐ 不器用	☐ 姿勢がくずれやすい
7. 生活面での心配	☐ とてもある	☐ ある	☐ なし
8. 有効な情報呈示方法	☐ 視覚優位	☐ 聴覚優位	☐ 両方 ☐ わからない
9. 感覚の過敏性	☐ 視覚 ☐ 聴覚 ☐ 触覚（特に顔） ☐ 味覚 ☐ 嗅覚 ☐ その他 ☐ なし		
10. 知的の心配	☐ とてもある	☐ ある	☐ なし

具体的には…

当てはまるものに☑を記入してください。 困っている分野の傾向がわかります。

お助けアイデアは、具体的には6頁をご覧ください。

具体的には	お助けアイデア
☐ 1 困った時に助けを求めることができない	工夫 1
☐ 2 話す内容が年齢に比べて幼ないように思う	工夫 2
☐ 3 一方的な会話が早い	工夫 3
☐ 4 人の話を聞いて理解するのが苦手 ～一斉指示は無関係と思いがち	工夫 4

□ 5 複数の指示を覚えるのが苦手	工夫 5
具体的には	お助けアイデア
□ 6 見て理解することが得意 ～禁止の指示は見た方がわかりやすい	工夫 6
□ 7 予定の変更を受け入れにくい	工夫 7
□ 8 新しいもの、場所、人を受け入れにくい ～環境の変化に敏感	工夫 8
□ 9 一つのことにあまりやすい ～興味：車、こだわり：勝敗、順番、道順	
□ 10 ひとり遊びが好き	配慮 1
□ 11 ルールや社会的な約束ごとがわかりにくい	工夫 9
□ 12 思い通りに事が進まなかった時、イライラが高じやすい	工夫 10
□ 13 思ったことを悪気なく口にして、友達とケンカになることがある	工夫11
□ 14 集団で行動することが苦手	配慮 1
□ 15 いつもおしゃべりしている	
□ 16 じっとすわっていることが苦手 ～立ち歩いてしまう	工夫12
□ 17 気が散りやすく先生の話聞きのがす、聞き間違える	工夫 4
□ 18 忘れ物・なくし物が多い	工夫13
□ 19 行事等でいつもと違う雰囲気、テンションが上がると多動になる	配慮 2
□ 20 一つのことをやり続けることが苦手	工夫14
□ 21 興味の対象が次々に変わる	
□ 22 正しい発音ができにくい	工夫15
□ 23 文字を読む、書くことがとても苦手	工夫16

☐ 24 数える、計算することがとても苦手	工夫17
具体的には	お助けアイデア
☐ 25 絵を描くことがとても苦手	工夫18
☐ 26 遊具であそぶこと（縄跳び、鉄棒、一輪車など）が苦手	
☐ 27 姿勢を保つのが苦手	工夫19
☐ 28 不器用	
☐ 29 トイレに支援が必要	
☐ 30 整理整頓、準備、片づけ（登下校時や授業の時等）が苦手	工夫20
☐ 31 給食を食べる時に支援が必要	
☐ 32 偏食がある	配慮3
☐ 33 ひとりで着替えができにくい	
☐ 34 スピーカー等の大きな音が苦手で行事に参加できにくい	配慮4
☐ 35 感覚の敏感さのために難しい活動（のりづけ、プールなど）がある	配慮5
☐ 36 知的な遅れがある	
☐ 37 その他（ ）	

点字 20 頁中段

☆困っている（心配な）分野

＊先生に相談したい優先順位：1～3まで

記入者（ ）

☑がついた番号	チェック数	心配な優先順位	困っている（心配な）分野
① ② ③ ④ ⑤ ⑫	/ 6		ことば、コミュニケーションの心配
⑦ ⑧ ⑨	/ 3		変化への適応の心配
⑩ ⑪ ⑬ ⑭	/ 5		社会性での心配
⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑	/ 7		多動性・衝動性・不注意の心配
㉒ ㉓ ㉔ ㉕	/ 4		学習上の心配
㉖ ㉗ ㉘	/ 3		運動・姿勢の心配
㉙ ㉚ ㉛ ㉜	/ 4		生活面での心配
⑥ ⑰	/ 2		有効な情報呈示方法
㉞ ㉟ ㊱	/ 3		感覚の過敏性

点字 21 頁中段

先生方からの情報

☆保育所・園で：

☆療育機関などで：

☆小学校で：入学から1か月くらいの間の様子を教えてください。

() さんが活用しているいろいろな工夫

いろいろな工夫例の写真など

検査結果のまとめ

検査の種類、実施機関、検査日、
結果（IQ、DQ、強味・弱み）、
検査者・主治医の意見・助言、 など

大阪市の就学相談

☆就学相談の窓口 … 地域小学校

- ・インターネット … にぎわいネット「障がいがあるお子さんの就学相談情報」

<http://www.ocec.jp/shidouubu/index.cfm/9,0,15.html>

- ・電話 … 大阪市教育局指導部 インクルーシブ教育推進担当
支援学校等への就学相談 Tel. 06-6327-1017

参考資料：お助けアイデアのいろいろ

心理教育学的に有効であるとされている支援方法のいくつかをご紹介します。
すぐに役立つような方法があればご参考・ご活用ください。

工夫 1：授業中、助けてほしいことや質問があるときにヘルプ（☆）

カードを机の上におくと先生が順番に来てくれるシステムは便利。

工夫 2：うまく話せない時は、ゆっくり聞きながら本人が話したいことをことば
を補足しつつ話すことで会話が成立しやすくなることが多い。

工夫 3：順番を交代を意識するゲームや課題を一緒にして交代を練習する。

発言の順番や「話す人」「聞く人」が視覚的に明示されているとより
わかりやすい。

工夫 4：名前をよぶなどして注意喚起してから一斉指示する、一斉指示の後で
個別に確認する等で確実に指示内容を理解しやすくなる。

工夫 5：板書、メモ等で指示内容が呈示されていると再確認しやすい。

工夫 6：ルールや禁止の指示等は、図やマーク、ポスター、短文等で見える形で
呈示する方がわかりやすい。

工夫 7：見える形でスケジュールを呈示しておき、変更もそのスケジュール上で
見える形で伝えると気持ちを切り替えやすい。

工夫 8：あらかじめ、初めての場所・活動・ひとについての情報を伝えておく。
可能であれば予行演習する。不安になった時にはどうするかも話し合っ
ておく（別室に落ち着きに行く、等）。

工夫 9：社会的な約束事・ルールを明記して伝える。

工夫 10：イライラしてきたときは静かで落ち着く場所へ誘導する。

予想通りに進まないことがあるかもしれないことを事前に
伝えておくことも1つの方法。

工夫11：落ち着いてから、本人・相手の気持ちや行動をマンガで見える化しながら話し合い状況を共有する。どうすればよいか話し合った後で、周囲・相手と問題解決することを促す。

工夫12：授業の流れが見える化（①～②～③～）したり、授業を区切って構成する（15分×3など）、集中が続きにくい子にはプリント1枚中の課題数を減らす等、課題の量とレベルを工夫するとよい。

工夫13：箇条書きされた連絡事項を連絡帳に記入し、家庭で必ず内容を確認することを連携して取り組み習慣化。チェックリストを使うのも便利。忘れ物をした時にどうするか決めておくとう安心できる。

工夫14：宿題をする時は、すぐにできそうな量、集中して取り組めそうな時間に調整して、好き・得意な内容から取り組む。

工夫15：おとなが聞き取って話す楽しさを維持する。発音が不明瞭なために同級生との会話に困る場合は、ことばの相談に行ってみるのもよい。

工夫16：読みが苦手…文字を拡大する、行間をあける、定規を使い1行ずつ見えるようにする、読めない漢字にルビをふる、句読点に色をつける、文節ごとにスラッシュ（／）を入れる、といった工夫の他に、絵や図や口頭の説明で内容をイメージできるようにすることも効果的。

書きが苦手…量と大きさを調整する。個人に合った量と方法（漢字九九など）で書く練習をするとともに、PCやひらがなゲーム等で文字の構成を楽しみながら学習していくとよいと思われる。

工夫17：計算が苦手…

工夫18：絵を描くのが苦手…

工夫19：姿勢保持しやすい座布団（Q チェアマット）などを使う。

メリハリをつけて練習していく（板書を写す時だけ良い姿勢、等）。

工夫20：仕切りなどの片づけツールやチェックリストを活用する。

整理整頓された机の写真を見本として示す

点字 29 頁下段

配慮1：休み時間に教室で本を読むなどひとりで過ごす時間を確保していただけると安心して1日を過ごすことができる。

配慮2：

配慮3：苦手な食べ物は量を減らしてトライする、本人の申請のもとで最初から盛り付けない、残す、という選択肢も設けていただけると安心して給食の時間に臨める。

配慮4：聴覚過敏がある。イヤマフ等のお助けグッズの使用や音量を下げる、運動会でのアナウンス方法を変える等環境を調整することを検討していただけるととても有難い。

配慮5：のりづけはスティックのりで行う、顔が敏感な場合はプールで顔つけなしでOK等、各児の感覚の敏感さに応じて配慮していただけると有難い。

点字 31 頁下段

☆発達障がいや教室での支援方法、実践例などの詳しい情報は、にぎわいネット「発達障がい理解のとびら」をご参照ください、

<http://www.ocec.ne.jp/shidoubu/tkbs/>